

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

	令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
1	<p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1 入学希望者を対象としたホームページコンテンツ・パンフレット等の充実や、SNSを利用した広報活動及び小中学校や教育委員会等への広報活動を行い、本校の特性や魅力を発信する。</p> <p>また、法人本部が主催する合同説明会及び外部団体や地域で主催するイベント等に協力・参加することにより、組織的、戦略的な広報活動を行い入学者の確保に取り組む。</p>	<p>[学生募集対策委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの各学科のメイン写真と電子機械工学科のコンテストの写真を更新した。 ・機構本部が主催する国公私立高専合同説明会(KOSEN FES)2025(6/15東京:オンライン、7/13大阪:対面)に参加した。 ・一般社団法人日本船主協会が主催する5校合同進学ガイダンス(7/26横浜、8/23神戸)に参加した。 ・入試データの集計結果を教員会議で周知した。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○SNSに記事を50件以上投稿する。 ・FacebookとInstagarmにそれぞれ59件の投稿を行った。 ・今年度の投稿数:118件/前年度の投稿数:167件 ・創造工学科の第1志望者数:延べ54名(推薦40名、学力14名) 	
2	<p>①-2 入学者確保のため、進路説明会、体験航海、出前授業、オープンキャンパス、学校説明会等の機会を活用し、国立高等専門学校及び本校の特性や魅力を発信する。</p>	<p>[学生募集対策委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校33校の進学説明会に参加した。 ・地区別学校説明会を上島地区(5/17)、今治地区(5/21)、因島地区(6/6)、福山地区(6/7)、尾道地区(6/8)で実施した。 ・第1回オープンキャンパス(工業系)(7/12、7/13)を実施し、213組553名が参加した。 ・第1回オープンキャンパス(商船系)(7/19、7/20)を実施し、104組280名が参加した。 ・第2回オープンキャンパス(9/7)をオンラインで実施し、40名が参加した。 ・第3回オープンキャンパス(11/1、11/2)を実施し、113組295名が参加した。 ・出前授業を7回、弓削丸体験航海・総合体験型イベント等を合わせて10回、合計17回実施した。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパス参加者数を令和5年度(413組)より増加させる。 ※令和6年度の参加者数(411組)が、令和5年度の参加者数(413組)を下回ったため。 ・今年度の参加者数:470組/前年度の参加者数:411組 	
3	<p>①-3 小中学校・小中学生を対象としたSTEAM教育支援の取組み等を通じ、本校の特性や魅力を発信することにより、入学者の確保に取り組む。</p>	<p>[教務委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業を7回、弓削丸体験航海・総合体験型イベント等を合わせて10回、合計17回実施した。【再掲】 <p>[公開講座委員会(企画係)、情報工学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月4日にチャレンジキャンパスを実施した。 	
4	<p>②-1 オープンキャンパスにおいて女子生徒を対象としたイベントを行い、女子学生の確保に向けた取組を推進する。</p>	<p>[学生募集対策委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回オープンキャンパスにおいて、女子生徒向けのイベントを実施し、本校女子学生と参加者の交流を図った。 ・第1回、第3回オープンキャンパスにおいて、女子学生を学科イベントや寮見学の案内に起用した。 	
5	<p>②-2 オープンキャンパス国際化に資する外国人留学生の確保に向けて、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語版ホームページを充実し、高等専門学校教育並びに本校の特性や魅力について情報発信する。 ・KOSEN Global Camp、総合文化祭、留学生日本語スピーチコンテスト等への参加を推進する。 ・外国人留学生に対する教育効果を一層高めるため、「日本事情」などの留学生向け授業を実施する。 	<p>[広報委員会(情報・広報係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の活動を英語で情報発信するサイトの作成の検討を行い、その一環として、今年度から国際交流推進室Facebookに、日本語に加えて英訳の投稿を追加した。 ・学校ホームページにて、「KOSEN Global Camp」に関する記事や留学生に関する記事を多数掲載した。後期には「総合文化祭」や「日本語スピーチコンテスト」等の記事の掲載も行った。 ・国際交流推進室Facebookのフォロワー数は、45件であり、令和6年度末の40件から11.25%増加した。 <p>[国際交流推進室(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流推進室Facebookについて、11件の投稿を行い情報発信している。(R8.2.17現在) ・米子高専主催のKOSEN Global Camp in Yonago(8/24-8/30)に学生1名が参加した。 ・本校主催で、四国地区高専総合文化祭(12/19)に合わせて学校の枠を超えた外国人留学生交流活動を実施した。 ・留学生に愛媛県留学生等交流推進会議が主催する留学生日本語スピーチコンテスト(12/21)に留学生全員が参加した。 ・外国人留学生に対する教育効果を一層高めるため、引き続き「日本事情」などの留学生向け授業を実施している。 <p>[厚生補導委員会(学生支援係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月19日に四国地区高等専門学校総合文化祭を本校担当で実施した。 	
6	<p>③ 本校の入学者選抜方法について、アドミッションポリシーを踏まえ検討する。</p> <p>また、受験生の利便性を向上させるため、居住地の近くの高専で受験が可能となる「最寄り地等受験」や一度の学力検査で複数の国立高等専門学校の志願が可能となる「複数校志望受験制度」について、法人本部の方針に従って、引き続き実施する。</p>	<p>[入学試験委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜方法について、アドミッション・ポリシーを踏まえ、推薦による選抜の面接評価項目及び学力による選抜の調査書採点要領の検討を行い、今年度は昨年度と同様とすることとなった。来年度以降に向けて、推薦による選抜の口頭試問の実施について、引き続き検討を進めている。 ・「最寄り地等受験」及び「Web出願システム」について、機構本部の方針に従って、引き続き実施した。 ・本校と広島商船高専、大島商船高専で「複数校志望受験制度」を引き続き実施した。 	
7	<p>③-2 障害がある中学生等が志願した場合に備えて、法人本部の基本的な対応方針及び対応事例等を周知する。</p>	<p>[入学試験委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関することについて、募集要項に記載した。 ・機構本部の基本的な対応方針及び対応事例等を関係教職員に周知した。 	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

	令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
8	<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1 本校の強み・特色を活かした教育課程の改善・再編について、法人本部に相談し助言を得て検討する。 商船学科の次世代海洋人材育成など将来構想についての検討を商船系5校が連携し、法人本部と共に継続して行う。</p>	<p>[教務委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科改組に伴い、本校の強み・特色を活かしたカリキュラムの改正を行った。 ・次世代海洋人材育成事業を引き続き実施し、人材育成及び広報活動の観点から将来構想についての検討を継続して行った。 <p>[将来計画委員会(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省に学科改組の申請を行い、令和8年4月に電子機械工学科から創造工学科へ改組することが認可された。併せて、大学・高専機能強化支援事業への公募が選定された。その結果、令和8年度入試における創造工学科への志願者は54名となり、前年度前(電子機械工学科)と比較して16名増加した。 ・大学・高専機能強化支援事業については、交付申請時から物価高騰等の影響により、一部計画計画変更の必要が生じたため、令和8年2月に計画変更承認申請を行った。 	
9	<p>①-1-2 デジタル人材育成等の社会・産業・地域ニーズに対応するため、産業界との連携を通じ、次世代基盤技術教育のカリキュラム化等を推進するとともに、本校の特色・強みをいかしたアントレプレナーシップ教育や社会実装教育等を実施する。</p>	<p>[起業家工房センター運営委員会(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル人材育成等の社会・産業・地域ニーズに対応するため、地域創生演習を実施するとともに課外活動等で3月末時点において延べ約4,400時間、起業家工房センターを活用した。 	
10	<p>①-2 専攻科において、大学・大学院と連携・協力し、大学・大学院の教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図ることを目的とした連携教育プログラムを推進する。</p>	<p>[専攻科委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-Learningに係る単位互換協定に基づき、豊橋技術科学大学が前期に開講した科目1科目を専攻科1年生5名が受講した。 	
11	<p>②-1 学生が海外で活動する機会を提供するため、海外留学や海外インターンシップ、学生交流、海外の大学等と連携したグローバル・アントレプレナーシップ・プログラム等への参加を推進する。</p>	<p>[国際交流推進室(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協定校であるモンゴル科学技術大学への学生派遣プログラム(モンゴル、9/4~9/19)を実施し、学生2名が参加した。 ・協定校であるナコンパノム大学への学生派遣プログラム(タイ、2/21~3/8)を実施し、学生1名が参加した。 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、フィリピン(夏)短期海外研修プログラム(フィリピン、9/7~9/20)を実施し、学生9名が参加した。 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、フィリピン(3月上旬)及びシンガポール(3月上旬)での短期海外研修プログラムの実施を予定していたが、都合により中止した。 ・豊橋技術科学大学が主催するベナン海外研修(マレーシア、8/17~8/30)に学生1名が参加した。 ・日本郵船株式会社が主催するNTMA国際交流プログラム(フィリピン、8/24~8/31)に学生4名が参加した。 ・国際船員労務協会が主催する「アジア・太平洋海事大学(フィリピン)練習船での日比異文化交流プログラム」(フィリピン、3月18日~24日)に学生6名を派遣した。 ・今年度の参加者数:23名/前年度の参加者数:延べ32名 <p>[国際交流推進室(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協定校等への学生派遣、受入プログラムを企画し、実施した。 ・5/25~27にMAAP(アジア太平洋海事大学)の受入プログラムを実施した。 ・10/26~28にNTMA(フィリピン商船大学)の受入プログラムを実施した。 ・10/29~11/13にMUST(モンゴル科学技術大学)の受入プログラムを実施した。 <p>[起業家工房センター運営委員会(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LEADING EDGE四国2025に学生2名が参加し、2名とも一次審査及びプレゼン審査会を通過した。国内合宿を行い、1月31日に最終報告会を実施した。 ・12月10日に第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で学生5名が優秀賞を受賞した。 <p>[厚生補導委員会(学生支援係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月19日に四国地区高等専門学校総合文化祭を本校担当で実施した。【再掲】 ・10月11日、12日に全国高等専門学校プログラミングコンテスト、10月19日に全国高等専門学校ロボットコンテスト四国地区大会、12月19日に四国地区高等専門学校英語スピーチコンテストに出場した。 	
12	<p>②-2 学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や、海外活動を積極的に経験し、グローバル環境下で専門知識・スキルを活用し、協働して課題解決に取り組むことができる人財を育成するため、グローバルエンジニア育成事業を実施する。</p> <p>・海外の大学等と連携したグローバル・アントレプレナーシップ・プログラム等への参加を推進する。</p> <p>・KOSEN Global Camp、総合文化祭、日本語スピーチコンテスト等への参加を推進する。【再掲】</p>	<p>[国際交流推進室(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルエンジニア育成事業として、以下の取組を行った。 ・協定校であるナコンパノム大学への学生派遣プログラム(タイ、2/21~3/8)を実施し、学生1名が参加した。【再掲】 ・協定校であるナコンパノム大学への学生派遣プログラム(タイ、2月下旬~3月上旬)を実施予定である。【再掲】 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、フィリピン(夏)短期海外研修プログラム(フィリピン、9/7~9/20)を実施し、学生9名が参加した。【再掲】 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、フィリピン(3月上旬)及びシンガポール(3月上旬)での短期海外研修プログラムの実施を予定していたが、都合により中止した。 【再掲】 ・米子高専主催のKOSEN Global Camp in Yonago(8/24-8/30)に学生1名が参加した。 【再掲】 ・本校主管で、四国地区高等専門学校総合文化祭(12/19)に合わせて学校の枠を超えた外国人留学生交流活動を実施した。【再掲】 ・留学生に愛媛県留学生等交流推進会議が主催する留学生日本語スピーチコンテスト(12/21)の案内を行い、留学生5名が参加した。【再掲】 ・11月~1月(週2回)にTOEIC対策講座を実施した。 <p>[厚生補導委員会(学生支援係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月19日に四国地区高等専門学校総合文化祭を本校担当で実施した。【再掲】 ・10月11日、12日に全国高等専門学校プログラミングコンテスト、10月19日に全国高等専門学校ロボットコンテスト四国地区大会、12月19日に四国地区高等専門学校英語スピーチコンテストに出場した。【再掲】 <p>[起業家工房センター運営委員会(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LEADING EDGE四国2025に学生2名が参加し、2名とも一次審査及びプレゼン審査会を通過した。国内合宿を行い、1月31日に最終報告会を実施した。【再掲】 ・12月10日に第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で学生5名が優秀賞を受賞した。【再掲】 	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
13	<p>③-1 学生の意欲向上や本校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストに参加する。</p> <p>[厚生補導委員会(学生支援係)] ・全国高等専門学校体育大会には団体種目1クラブ、延べ6クラブ17種目の参加、うち2種目で優勝、1種目で準優勝の成績であった。また、高等専門学校将棋大会では個人戦で2名が全国大会に進出、高等専門学校弓道大会では個人戦で1名が全国大会に進出した。 ・全国高等専門学校デザインコンペティションに2チームがエントリーし、いずれも11月8、9日に開催された本選に出場し、1チームが審査員特別賞を受賞した。 ・全国高等専門学校プログラミングコンテストに3チームがエントリーし、うち2チームが予選を通過して10月11、12日に開催された本選に出場した。 ・10月19日に開催された全国高等専門学校ロボコン四国地区大会に2チームが参加し、1チームが特別賞、1チームがデザイン賞を受賞した ・12月10日に開催されたキャンパスベンチャーグランプリ四国審査会に1チームが出場し、優秀賞を受賞した。</p>	
14	<p>③-2 学生に対し、ボランティア活動の参加意義や災害時におけるボランティア活動への参加の奨励等に関する周知を行う。また、単位認定などにより学生のボランティア活動への参加を推奨する。</p> <p>[厚生補導委員会(学生支援係)] ・2月2日に防災リーダー育成研修会を実施した。 ・3月4日に学生による松原海岸周辺の清掃を実施した。</p> <p>[教務委員会(教務係)] ・電子機械工学科、情報工学科において、「地域創生演習」の科目でボランティア参加に対して単位認定できるようにしている。</p>	
15	<p>③-3 国際会議、海外留学、短期教育プログラム等の学生の海外渡航に必要なとなる支援の拡充と併せて、各種海外派遣奨学金制度等の情報収集及び提供を行うことで、学生の積極的な活用を促し、グローバルに活躍しうるエンジニアとして求められる資質・能力を伸長する海外活動等に学生が参加する機会を拡充する。</p> <p>・海外の大学等と連携したグローバル・アントレプレナーシップ・プログラムへの参加を推進する。【再掲】 ・KOSEN Global Camp、総合文化祭、日本語スピーチコンテスト等への参加を推進する。【再掲】</p> <p>[国際交流推進室(教務係)] ・学生に対して、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を、Teamsやポスター掲示にて、随時提供した。 ・米子高専主催のKOSEN Global Camp in Yonago(8/24-8/30)に学生1名が参加した。【再掲】 ・本校主管で、四国地区高等総合文化祭(12/19)に合わせて学校の枠を超えた外国人留学生交流活動を実施した。【再掲】 ・留学生在に愛媛県留学生等交流推進会議が主催する留學生日本語スピーチコンテスト(12/21)の案内を行い、留學生5名が参加した。【再掲】</p> <p>[厚生補導委員会(学生支援係)] ・12月19日に四国地区高等専門学校総合文化祭を本校担当で実施した。【再掲】 ・10月11日、12日に全国高等専門学校プログラミングコンテスト、10月19日に全国高等専門学校ロボットコンテスト四国地区大会、12月19日に四国地区高等専門学校英語スピーチコンテストに出場した。【再掲】</p> <p>[起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・LEADING EDGE四国2025に学生2名が参加し、2名とも一次審査及びプレゼン審査会を通過した。国内合宿を行い、1月31日に最終報告会を実施した。【再掲】 ・12月10日に第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で学生5名が優秀賞を受賞した。【再掲】</p> <p>[地共研センター(企画係)] ・技術振興会による学生の海外研修への支援を周知した。</p>	
16	<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保 ① 機構本部からの通知に従い、専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とし、多様かつ優れた教員を確保する。</p> <p>[人事委員会(人事係)] ・商船学科では助教3名を公募したが、博士の学位を有する者の応募が無いため、要件を緩和し、応募資格を航海学分野においては「3級海技士(航海)、又は担当科目に関する修士以上の学位を有する者が望ましい」、流体工学分野及び海洋工学又は海事科学に関する分野においては、「修士以上の学位を有する者が望ましい」とした。 ・電子機械工学科の3名について、博士の学位を有すること又は取得見込であることを応募資格に掲げて公募した。 ・情報工学科では助教3名を公募したが、博士の学位を有する者の応募が無いため、要件を緩和し、「修士の学位を有する者又は情報工学の分野について知識及び経験を有する者」を応募資格として公募した。 ・応募資格として、博士の学位を有する者を掲げていない場合でも、将来的な博士取得の意欲があることを応募資格の1つとした。 ・令和7年度:4名採用(商船学科1名、情報工学科3名)、2名自主退職(情報工学科1名、総合教育科1名)、令和8年4月1日時点で前年度比2名増の予定である。</p>	
17	<p>② クロスアポイントメント制度について周知する。</p> <p>[人事委員会(人事係)] ・6月24日開催の第2回人事委員会にてクロスアポイントメント制度を周知した。 ・10月21日に教職員に対してクロスアポイントメント制度を周知した。</p>	
18	<p>②-2 民間企業の経験がある教員の活用による教育内容の高度化を推進する。</p> <p>[教務委員会(教務係)] ・各学科で実務経験のある教員による授業を実施した。</p> <p>[情報工学科] ・最先端の知識と技術を有する非常勤講師兼外部コーチを雇用した。 https://gekkan-kosen.com/23582/</p>	
19	<p>③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 また、女性教員が働きやすい環境を整備するため、女性教職員の意見交換の場を設ける。</p> <p>[人事委員会(人事係)] ・1名が育児短時間勤務を行った。 ・育児への配慮として2名が早出労働を行った。 ・1名が育児休業を取得した。 ・9月10日付けで同居支援プログラムについて募集を行った。 ・令和6年度より個人別の変形労働時間制の導入しており、令和7年度も引き続き2名が変形労働時間制を適用した。</p> <p>[ダイバーシティ推進室(総務係)] ・2月24日に女性教職員の意見交換の場として、校長主催の懇談会を開催した。</p>	
20	<p>④ 外国人教員の採用を継続する。</p> <p>[人事委員会(人事係)] ・常勤1名・非常勤講師1名を雇用している。</p>	
21	<p>⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、両技術科学大学との教員人事交流制度について周知する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても周知する。</p> <p>[人事委員会(人事係)] ・4月に技科大との教員交流人事制度について周知した。 ・高専間教員人事交流については令和7年4月に周知した。</p>	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

	令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
22	⑥ 教員の能力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた活動参加を推奨する。	<p>[FD委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観を6月～1月の期間で実施した。 ・学内グループウェアにて、教員の資質向上を目的とした各種研修会の案内を随時行った。 <p>[人事委員会(人事係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高専新任教員研修会(5月15～16日集合研修)に1名を派遣した。 ・高専中堅教員研修会(10月28日～29日集合研修)に1名を派遣した。 ・7月31日にSPOD講師派遣プログラム「授業構成を考えるためのインストラクショナルデザイン」を開講した。 	
23	⑦ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを国立高等専門学校教員顕彰に推薦する。また、学内においても顕著な功績が認められる教職員を表彰する。	<p>[総務課(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立高等専門学校教員顕彰の推薦者を選考するため、教員の自己評価・相互評価及び学生による教員評価を9月末～10月上旬に実施し、11月上旬に教員を国立高等専門学校教員顕彰に推薦した。 <p>[人事委員会(人事係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月4日開催の人事委員会にて今年度の校内教職員表彰実施要項を決定した。人事委員会での審議を経て、2月19日開催の運営委員会で表彰対象者を決定した。 	
24	<p>(4) 教育の質の向上及び改善</p> <p>① 高専間における授業科目の履修・単位の互換認定を検討する。また、モデルコアカリキュラムに基づく教育を実施するとともに、地域におけるニーズ等を踏まえた特色ある教育の強化を図る。</p> <p>ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが適切に設定され、これらに基づくマネジメントが行われているか検証することにより、教学マネジメントの実践を推進し、PDCAサイクルにより教育の改善を行う。</p>	<p>[教務委員会(教務係)、専攻科委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構本部の方針に従って、高専間提供科目として本校から1科目を提供し、他校から2名の受講者があった。また、他校が提供している科目1科目を1名が受講した。 ・モデルコアカリキュラムに基づく教育を実施した。 ・地域におけるニーズ等を踏まえた特色ある教育として「地域創生演習」の科目の中で離島工学に関する取組を行っている。また、高度情報人材育成の強化を図るため、来年度から高度情報人材の育成のために改組を行う。 ・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが適切に設定されている。 ・商船学科卒業生、専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。 ・在校生に対し学修状況アンケートを実施した。 ・電子機械工学科、情報工学科卒業生、専攻科(生産システム工学専攻)修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。 	
25	② 教育の質の向上に努めるため、「自己点検・評価及び高等専門学校機関別認証評価及び国立高等教育国際標準(KIS)の受審に向け計画的に準備を進める。	<p>[自己点検評価委員会(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度自己点検・評価報告書を11月に作成した。 ・外部委員による運営諮問会議を12月3日(水)に開催した。 ・令和2年度の機関別認証評価結果において、改善を要する点として指摘された事項を全て改善した。 ・令和9年度に機関別認証評価及びKISを受審予定である旨周知し、受審に向けて、機関別認証評価(準備)WG(KIS対応兼務)を立ち上げた。 	
26	③-1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL:Project-Based Learning)を継続する。 また、企業や自治体、教育機関等と連携し、本校におけるSTEAM教育の高度化を図る。	<p>[起業家工房センター運営委員会(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月19日にアントレプレナーシップ教育強化の取組みとして、(株)パブリックリレーションズ研究所と連携し、教職員を対象にしたアントレプレナーシップ教育支援講演会を実施した。 ・1月30日にアントレプレナーシップ教育強化の取組みとして、(株)パブリックリレーションズ研究所と連携し、学生を対象にしたアントレプレナーシップ教育支援講演会を実施した。 	
27	③-2 企業と連携した教育プログラムを実施する。	<p>[地共研センター(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術振興会と共催して、以下の資格試験対策講座を地域の社会人も対象として実施した。 11月21日、22日、高所作業車運転特別教育((株)アイテコーポレーションと連携) 11月30日、フルハーネス型墜落防止用器具特別教育(四国通建(株)と連携) <p>[起業家工房センター運営委員会(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月19日アントレプレナーシップ教育強化の取組みとして、(株)パブリックリレーションズ研究所と連携し、教職員を対象にしたアントレプレナーシップ教育支援講演会を実施した。【再掲】 ・1月30日にアントレプレナーシップ教育強化の取組みとして、(株)パブリックリレーションズ研究所と連携し、学生を対象にしたアントレプレナーシップ教育支援講演会を実施した。【再掲】 	
28	④ 高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との連携・協議に参加し、教員の研修、技術科学大学との間の連携教育、人事交流などの分野で有機的な連携を検討する。	<p>[教務委員会、専攻科委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学と各高専とのe-Learning高等教育連携(eHELP)全体会議(8/18)に参加した。 <p>[就職指導委員会(学生支援係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月29日にキャリア教育フォーラムを実施し、技術科学大学と学生との情報交換を行う場を設けた。 <p>[人事委員会(人事係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に技科大との教員交流人事制度について周知した。【再掲】 	
29	<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>① 学生相談体制の充実のため、カウンセラー及びソーシャルワーカー等の専門職の有機的な配置を検討するとともに、機構本部が実施する、いじめ防止や障害を有する学生への支援等学生指導に関する研修に参加する。</p>	<p>[学生相談室(学生支援係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生指導支援体制の充実を図るため、スクールソーシャルワーカーは週1日、カウンセラーは週4日、非常勤看護師は週5日の雇用を継続している。 ・4月23日にカウンセラーが学生相談室運営委員会に、6月4日にカウンセラー、7月31日にスクールソーシャルワーカーがいじめ対策委員会に出席し助言した。 ・4月7日にカウンセラーが対面で新入生対象メンタルヘルス研修、4月10日、17日、24日にスクールソーシャルワーカーが対面で1年各クラス対象メンタルヘルス研修、5月29日にカウンセラーが対面で性的マイノリティ研修、6/26にスクールソーシャルワーカーが対面で1年対象いじめ防止研修、7/7からスクールソーシャルワーカーがオンラインでいじめ防止研修を実施し、約9割の学生が受講した。9月25日にカウンセラーがメンタルヘルス研修を実施予定である。 ・全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修に4名参加した。 	
30	② 高等教育の修学支援新制度の周知を徹底するとともに、各種奨学金制度に係る情報提供をすることで学生支援を充実させる。	<p>[厚生指導委員会(学生支援係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、掲示や郵送による学生や保護者への案内に加えて、随時必要な情報をホームページに掲載している。 	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題	
31	<p>③ 入学時から卒業時までの計画的なキャリア教育を検討し、卒業生、同窓会や企業等と連携を図るとともに、企業情報、就職・進学情報などの提供体制・相談方法を含めたキャリア支援の充実を図る。また、次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時にキャリア支援も含めた満足度調査を実施する。</p>	<p>[就職指導委員会(学生支援係)] ・「商船高専生のための仕事研究セミナー」を5月18日に実施し、商船学科の1年生から5年生が参加した。セミナーでは企業と学生との情報交換もあった。また、電子機械工学科・情報工学科3・4年生を対象に「キャリア教育フォーラム」を11月29日に実施した。 ・「キャリア教育」の授業において、本校OBの訪問があった。</p> <p>[教務委員会(教務係)] ・特別活動(HR)の一部でキャリア教育を実施した。 ・商船学科卒業生、専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。【再掲】 ・電子機械工学科、情報工学科卒業生、専攻科(生産システム工学専攻)修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。【再掲】</p>	
32	<p>1. 2 社会連携に関する事項 ① 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を、学校要覧・シーズ集やホームページ、プレスリリースなどにより発信する。</p>	<p>[地共研センター(企画係)] ・教員の研究分野や共同研究、受託研究等の情報を学校要覧、シーズ集及びホームページに掲載した。 ・学術論文や学会発表等の教員の研究成果をresearchmapで発信するよう促した。 <成果指標> ○共同研究、受託研究等の新規受入(公募型除く)は2件。(山陽レック及びSTUDIO3)</p>	
33	<p>② 国立高専リサーチアドミストレータ(KRA)や四国地区地域イノベーションセンター、国立高等専門学校間の研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信や知的資産化など社会還元を努める。</p>	<p>[地共研センター(企画係)] ・12月11日に産学連携フォーラムを開催し、本校の技術シーズの紹介や企業との情報交換を行った。 ・法人本部や第4ブロックが企画する各種研究ネットワークへの積極的な参加を促した。 <成果指標> ○共同研究、受託研究等の新規受入(公募型除く)は2件。(山陽レック及びSTUDIO3) 【再掲】</p>	
34	<p>③-1 情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組む。</p>	<p>[広報委員会(情報・広報係)] ・報道機関に対してプレスリリースを行い、イベント等の周知を行った。機構本部に報告済のマスコミ関係掲載情報数は102件である。 ・小学生を対象とした海事啓発イベント「ジョブキッズえひめ2025」を実施した。(8月4日・5日、参加小学生数4名、南海放送との連携) ・大阪関西万博において、「高専未来チャレンジ」コーナーに出展した。(6月18日・19日、読売新聞社主催)</p> <p>[総務課(総務係)] ・4月の入学式、9月の商船学科卒業式・専攻科修了式などについて、地元新聞社と連携を図り、記事が掲載された。3月の卒業式・修了式についても、地元新聞社と連携を図り、情報発信を行った。</p>	
35	<p>③-2 ホームページや報道機関への情報提供等を通じて、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を機構本部に随時報告する。</p>	<p>[広報委員会(情報・広報係)] ・学校ホームページの教員・役職者一覧、学級担任、教職員数の情報等を今年度の内容に変更した。また、各学科のページの更新も行い、HPトップに表示されるバナーも、新たに作成した。 ・機構本部へ報道内容等について随時報告を行った。 ・報道機関に対してプレスリリースを行い、イベント等の周知を行った。機構本部に報告済のマスコミ関係掲載情報数は102件である。【再掲】 ・小学生を対象とした海事啓発イベント「ジョブキッズえひめ2025」を実施した。【再掲】 ・大阪関西万博において、「高専未来チャレンジ」コーナーに出展した。(6月18日・19日、読売新聞社主催)【再掲】</p> <p><成果指標> ○SNSに記事を50件以上投稿する。【再掲】 ・FacebookとInstagramにそれぞれ59件の投稿を行った。【再掲】 ・今年度の投稿数:118件/前年度の投稿数:167件【再掲】</p> <p>[総務課(総務係)] ・4月の入学式、9月の商船学科卒業式・専攻科修了式などについて、地元新聞社と連携を図り、記事が掲載された。3月の卒業式・修了式についても、地元新聞社と連携を図り、情報発信を行う予定である。【再掲】</p>	
36	<p>④ 地域の自治体等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育支援の取組み等を通じ、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成支援を推進する。また、地域の社会人を対象としたリスキル、リカレントに関する講座等を実施する。</p>	<p>[教務委員会(教務係)] ・出前授業を7回、弓削丸体験航海・総合体験型イベント等を合わせて10回、合計17回実施した。【再掲】</p> <p>[地共研センター(企画係)] ・技術振興会と共催して、以下の資格試験対策講座を地域の社会人も対象として実施した。【再掲】 11月21日、22日、高所作業車運転特別教育((株)アイテコーポレーションと連携) 11月30日、フルハーネス型墜落防止用器具特別教育(四国通建(株)と連携) ・地元自治体と連携して、地域の活性化や人材育成、課題解決を目的とした「離島人材育成基金助成事業」に応募し、1件採択された。</p> <p>[起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・愛媛グローバル・コンソーシアムに参画し、各会員が実施する創業・スタートアップ支援関係事業(セミナー、補助金等)等の情報を周知した。また、教員2名が3月5日開催の勉強会と総会に出席した。</p> <p>[公開講座委員会(企画係)] ・10月4日にチャレンジキャンパスを実施した。【再掲】</p>	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

	令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
	1. 3 国際交流等に関する事項		
	①-1 特になし	-	
	①-2 特になし	-	
	①-3 特になし	[外国人留学生委員会(教務係)] ・情報工学科3年にタイ高専からの留学生を1名受け入れた。	
	①-4 特になし	-	
	①-5 特になし	-	
	①-6 特になし	-	
	①-7 特になし	-	
	② 特になし	-	
37	③-1 学生が海外で活動する機会を提供するため、海外留学や海外インターンシップ、学生交流、海外の大学等と連携したグローバル・アントレプレナーシップ・プログラム等への参加を推進する。【再掲】	[国際交流推進室(教務係)] ・協定校であるモンゴル科学技術大学への学生派遣プログラム(モンゴル、9/4~9/19)を実施し、学生2名が参加した。【再掲】 ・協定校であるナコンパノム大学への学生派遣プログラム(タイ、2/21~3/8)を実施し、学生1名が参加した。【再掲】 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、フィリピン(夏)短期海外研修プログラム(フィリピン、9/7~9/20)を実施し、学生9名が参加した。【再掲】 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、フィリピン(3月上旬)及びシンガポール(3月上旬)での短期海外研修プログラムの実施を予定していたが、都合により中止した。【再掲】 ・豊橋技術科学大学が主催するベナン海外研修(マレーシア、8/17~8/30)に学生1名が参加した。【再掲】 ・日本郵船株式会社が主催するNTMA国際交流プログラム(フィリピン、8/24~8/31)に学生4名が参加した。【再掲】 ・国際船員労務協会が主催する「アジア・太平洋海事大学(フィリピン)練習船での日比異文化交流プログラム」(フィリピン、3月18日~24日)に学生6名を派遣した。【再掲】 ・今年度の参加者数:23名/前年度の参加者数:延べ32名【再掲】 [国際交流推進室(企画係)] ・協定校等への学生派遣、受入プログラムを企画し、実施した。(再掲) ・5/25~27にMAAP(アジア太平洋海事大学)の受入プログラムを実施した。(再掲) ・10/26~28にNTMA(フィリピン商船大学)の受入プログラムを実施した。(再掲) ・10/29~11/13にMUST(モンゴル科学技術大学)の受入プログラムを実施した。(再掲) [起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・LEADING EDGE四国2025に学生2名が参加し、2名とも一次審査及びプレゼン審査会を通過した。国内合宿を行い、1月31日に最終報告会を実施した。【再掲】 ・12月10日に第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で学生5名が優秀賞を受賞した。【再掲】 [厚生補導委員会(学生支援係)] ・12月19日に四国地区高等専門学校総合文化祭を本校担当で実施した。【再掲】 ・10月11日、12日に全国高等専門学校プログラミングコンテスト、10月19日に全国高等専門学校ロボットコンテスト四国地区大会、12月19日に四国地区高等専門学校英語スピーチコンテストに出場した。【再掲】	
38	③-2 学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や、海外活動を積極的に経験し、グローバル環境下で専門知識・スキルを活用し、協働して課題解決に取り組むことができる人材を育成するため、グローバルエンジニア育成事業を実施する。 ・海外の大学等と連携したグローバル・アントレプレナーシップ・プログラム等への参加を推進する。【再掲】 ・KOSEN Global Camp、総合文化祭、日本語スピーチコンテスト等への参加を推進する。【再掲】	[国際交流推進室(教務係)] ・グローバルエンジニア育成事業として、以下の取組を行った。 ・協定校であるモンゴル科学技術大学への学生派遣プログラム(モンゴル、9/4~9/19)を実施し、学生2名が参加した。【再掲】 ・協定校であるナコンパノム大学への学生派遣プログラム(タイ、2/21~3/8)を実施し、学生1名が参加した。【再掲】 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、フィリピン(夏)短期海外研修プログラム(フィリピン、9/7~9/20)を実施し、学生9名が参加した。【再掲】 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、フィリピン(3月上旬)及びシンガポール(3月上旬)での短期海外研修プログラムの実施を予定していたが、都合により中止した。【再掲】 ・米子高専主催のKOSEN Global Camp in Yonago(8/24~8/30)に学生1名が参加した。【再掲】 ・本校主管で、四国地区高専総合文化祭(12/19)に合わせて学校の枠を超えた外国人留学生交流活動を実施した。【再掲】 ・留学生に愛媛県留学生等交流推進会議が主催する留学生日本語スピーチコンテスト(12/21)の案内を行い、留学生5名が参加した。【再掲】 ・11月~1月(週2回)にTOEIC対策講座を実施した。【再掲】 [厚生補導委員会(学生支援係)] ・12月19日に四国地区高等専門学校総合文化祭を本校担当で実施した。【再掲】 ・10月11日、12日に全国高等専門学校プログラミングコンテスト、10月19日に全国高等専門学校ロボットコンテスト四国地区大会、12月19日に四国地区高等専門学校英語スピーチコンテストに出場した。【再掲】 [起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・LEADING EDGE四国2025に学生2名が参加し、2名とも一次審査及びプレゼン審査会を通過した。国内合宿を行い、1月31日に最終報告会を実施した。【再掲】 ・12月10日に第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で学生5名が優秀賞を受賞した。【再掲】	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

	令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
39	<p>③-3 国際会議、海外留学、短期教育プログラム等の学生の海外渡航に必要となる支援の拡充と併せて、各種海外派遣奨学金制度等の情報収集及び提供を行うことで、学生の積極的な活用を促し、グローバルに活躍しうるエンジニアとして求められる資質・能力を伸長する海外活動等に学生が参加する機会を拡充する。</p> <p>・海外の大学等と連携したグローバル・アントレプレナーシップ・プログラムへの参加を推進する。【再掲】</p> <p>・KOSEN Global Camp、総合文化祭、日本語スピーチコンテスト等への参加を推進する。【再掲】</p>	<p>[国際交流推進室(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対して、「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を、Teamsやポスター掲示にて、随時提供した。【再掲】 ・米子高専主催のKOSEN Global Camp in Yonago(8/24-8/30)に学生1名が参加した。【再掲】 ・本校主管で、四国地区高専総合文化祭(12/19)に合わせて学校の枠を超えた外国人留学生交流活動を実施した。【再掲】 ・留学生に愛媛県留学生等交流推進会議が主催する留学生日本語スピーチコンテスト(12/21)の案内を行い、留学生5名が参加した。【再掲】 <p>[厚生補導委員会(学生支援係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月19日に四国地区高等専門学校総合文化祭を本校担当で実施した。【再掲】 ・10月11日、12日に全国高等専門学校プログラミングコンテスト、10月19日に全国高等専門学校ロボットコンテスト四国地区大会、12月19日に四国地区高等専門学校英語スピーチコンテストに出場した。【再掲】 <p>[起業家工房センター運営委員会(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LEADING EDGE四国2025に学生2名が参加し、2名とも一次審査及びプレゼン審査会を通過した。国内合宿を行い、1月31日に最終報告会を実施した。【再掲】 ・12月10日に第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で学生5名が優秀賞を受賞した。【再掲】 <p>[地共研センター(企画係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術振興会による学生の海外研修への支援を周知した。【再掲】 	
40	<p>④ オンキャンパス国際化に資する外国人留学生の確保に向けて、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語版ホームページを充実し、高等専門学校教育並びに本校の特性や魅力について情報発信する。【再掲】 ・KOSEN Global Camp、総合文化祭、日本語スピーチコンテスト等への参加を推進する。【再掲】 ・外国人留學生に対する教育効果を一層高めるため、「日本事情」などの留學生向け授業を実施する。【再掲】 	<p>[広報委員会(情報・広報係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の活動を英語で情報発信するサイトの作成の検討を行い、その一環として、今年度から国際交流推進室Facebookに、日本語に加えて英訳の投稿を追加した。【再掲】 ・学校ホームページにて、「KOSEN Global Camp」に関する記事や留學生に関する記事を多数掲載した。後期には「総合文化祭」や「日本語スピーチコンテスト」等が予定されており、それらに関する記事の掲載も行う予定である。【再掲】 ・国際交流推進室Facebookのフォロワー数は、45件であり、昨年度末の40件から11.25%増加した。【再掲】 <p>[国際交流推進室(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流推進室Facebookについて、11件の投稿を行い情報発信した。【再掲】 ・米子高専主催のKOSEN Global Camp in Yonago(8/24-8/30)に学生1名が参加した。【再掲】 ・本校主管で、四国地区高専総合文化祭(12/19)に合わせて学校の枠を超えた外国人留学生交流活動を実施した。【再掲】 ・留学生に愛媛県留学生等交流推進会議が主催する留学生日本語スピーチコンテスト(12/21)の案内を行い、留学生5名が参加した。【再掲】 <p>[外国人留學生委員会(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報工学科3年にタイ高専からの留學生を1名受け入れた。【再掲】 <p>[厚生補導委員会(学生支援係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月19日に四国地区高等専門学校総合文化祭を本校担当で実施した。【再掲】 	
41	<p>⑤ 教員や学生の国際交流の際には、海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮を行う。</p> <p>また、外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組む。</p>	<p>[学生課(教務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外インターンシップに参加する学生は、海外旅行保険に加入する同意書を提出させ、保険に加入させた。 ・毎月初めに留学生の在籍確認を行った。 	
42	<p>2. 1 一般管理費等の効率化</p> <p>高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費を含む人件費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費及びその他の業務経費について、1%の業務の効率化を図る。</p>	<p>[総務課(財務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営費交付金を充当して行う業務については、当年度特別に措置される経費を除き、機構本部から配分のあった予算(管理運営費既定分△3%)の範囲内で当初配分を行った。 	
	<p>2. 2 給与水準の適正化</p> <p>特になし</p>	-	
43	<p>2. 3 契約の適正化</p> <p>業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。</p> <p>さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、入札及び契約の適正な実施について監査を受ける。</p>	<p>[総務課(財務係、契約係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとした。 ・引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を実施し、入札及び契約を適正に実施した。なお、本年度は契約監視委員会の監査対象に本校は選出されず、相互監査の被監査校にならなかったが、学内の会計実地検査(内部監査)において監査を実施し、適正に入札及び契約が実施できていることを確認した。 	
44	<p>2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化</p> <p>学生等に対するサービスの提供や教職員の負担軽減及び業務効率化のため、デジタル・トランスフォーメーションを活用し、教育における業務の効率化及び教職員の業務効率化等を検討する。</p>	<p>[情報処理教育センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで紙で提出していた物品管理簿をガルーンの電子決裁に移行し、業務の効率化や負担軽減・情報の一元管理を実現した。 	
45	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <p>校長のリーダーシップのもと、本校における教育上の自主性や強み・特色などの機能強化を後押しするため、学生活動、外部資金獲得状況等及び学校運営状況に応じた予算配分方針をあらかじめ定め、各部署に周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。</p> <p>また、独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。</p>	<p>[総務課(財務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会において、予算配分方針を決定のうえ、各部署に周知した。また、運営委員会の審議を経て配分しており、透明性・公平性を確保した予算配分を行った。また、運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理した。 	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

	令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
46	3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また、卒業生が就職した企業、同窓会等との交流を図り、寄附金の獲得につながる取組を推進する。 さらに、本校のホームページにおける寄附案内ページの改修や寄附者にとって利便性の高い決済手段の導入等により、寄附金の募集方法の改善を検討する。	<p>【地共研センター(企画係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究分野や共同研究、受託研究等の情報を学校要覧、シーズ集及びホームページに掲載した。【再掲】 ・地元自治体と連携して、地域の活性化や人材育成、課題解決を目的とした「離島人材育成基金助成事業」に応募し、1件採択された。【再掲】 ・学術論文や学会発表等の教員の研究成果をresearchmapで発信するよう促した。【再掲】 ・12月11日に産学連携フォーラムを開催し、本校の技術シーズの紹介や企業との情報交換を行った。【再掲】 ・法人本部や第4ブロックが企画する各種研究ネットワークへの積極的な参加を促した。【再掲】 ・科研費レビューを実施した。 ・地元自治体(上島町)と連携し、ふるさと納税の使途として「弓削商船高等専門学校への支援」を追加した。また、保護者、同窓会、技術振興会会員等関係者に周知した。 ・寄附金の成果をホームページに掲載した。 ・クラウドファンディングの実施を検討した。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> 共同研究、受託研究等の新規受入(公募型除く)は2件。(山陽レック及びSTUDIO3)【再掲】 ○科研費の申請率は71.4%となり、70%以上を維持した。 ○昨年度末から技術振興会の会員数が11団体増加した。 	
	3. 3 予算 特になし	-	
	3. 4 収支計画 特になし	-	
	3. 5 資金計画 特になし	-	
	4. 短期借入金の限度額 4. 1 短期借入金の限度額 特になし	-	
	4. 2 想定される理由 特になし	-	
	5. 不要財産の処分に関する計画 特になし	-	
	6. 剰余金の使途 特になし	-	
47	7. 1 施設及び設備に関する計画 ① 「国立高専機構施設整備5か年計画2021」(令和3年3月決定)及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画・行動計画)2021」(令和3年3月決定)に基づき、主要施設(校舎)における老朽施設の改善を図りながら、施設機能の高度化を図る。 また、施設の新構造部材の耐震化について引き続き計画的に対策を推進する。	<p>【施設整備等検討委員会(施設係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高専5か年計画及び長寿命化インフラ整備に基づき、令和8年度概算要求において校舎改修(情報工学科棟)を要求した。 ・政府指針「災害対策基本法」に基づき避難施設強化として令和8年度概算要求において屋内運動場改修(第2体育館)を要求した。 ・施設の新構造部材の耐震化については、校舎改修(情報工学科棟)及び屋内運動場改修(第2体育館)に含めて予算要求した。 	
48	② 教職員・学生に安全管理のための各種講習会に参加するとともに、「実験実習安全必携」を周知する。	<p>【人事委員会(人事係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実験実習安全必携」をHPに掲載済である。 ・10月23日～24日開催の中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会へ1名参加した。 	
49	③ 中学生や保護者、在校生等にとって魅力ある、本校の特色にふさわしいキャンパス環境の形成に資する取組を計画的に検討する。	<p>【施設整備等検討委員会(施設係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月14日に施設整備等検討委員会を開催し、キャンパスマスタープラン進捗状況の中間報告を行った。 ・キャンパスマスタープランを作成した。 	
50	7. 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修に参加し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ① 課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を検討する。	<p>【厚生指導委員会(学生支援係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8クラブで計10名に外部コーチ及び課外活動指導員を委嘱している。 <p>【寮務委員会(寮務係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日直及び男子寮宿直業務を担当する非常勤職員(1名)を継続雇用し、週あたり4～5回の宿日直業務を割り当てている。これにより教員の宿日直回数が非常勤職員雇用前と比較して、1/3の負担軽減が実現された。また女子寮においても寮母を割り当て、当直教員の負担を軽減した。 ・教員一人当たりの宿日直回数は、月平均1.3回である。 ・宿日直計画を半年ごと作成している。これにより、中長期的な業務計画を立てることができ、負担の平滑化、交替が容易になるなどのメリットが確認された。 	・非常勤職員・寮母の活用により、当直教員への負担は軽減されている。しかし、男性教員については2ヶ月に3回程度の宿日直があり負担は大きい。非常勤職員の追加雇用が望ましいが適任者を探すことが難しい。
	② 特になし		
51	③ 若手教員確保のため、教員人員枠の流用について検討する。	<p>【人事委員会(人事係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月4日開催の人事委員会において教員人員枠の流用について検討し、令和8年度の採用計画を決定した。 	
52	④-1 法人本部からの通知に従い、専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とし、多様かつ優れた教員を確保する。【再掲】	<p>【人事委員会(人事係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商船学科では助教3名を公募したが、博士の学位を有する者の応募が無いため、要件を緩和し、応募資格を航海学分野においては「3級海技士(航海)、又は担当科目に関する修士以上の学位を有する者が望ましい」、流体工学分野及び海洋工学又は海事科学に関する分野においては、「修士以上の学位を有する者が望ましい」とした。【再掲】 ・電子機械工学科の3名について、博士の学位を有すること又は取得見込であることを応募資格に掲げて公募した。【再掲】 ・情報工学科では助教3名を公募したが、博士の学位を有する者の応募が無いため、要件を緩和し、「修士の学位を有する者又は情報工学の分野について知識及び経験を有する者」を応募資格として公募した。【再掲】 ・応募資格として、博士の学位を有する者を掲げていない場合でも、将来的な博士取得の意欲があることを応募資格の1つとした。【再掲】 ・令和7年度:4名採用(商船学科1名、情報工学科3名)、2名自主退職(情報工学科1名、総合教育科1名)、令和8年4月1日時点で前年度比2名増の予定である。【再掲】 	
53	④-2 クロスアポイントメント制度について周知する。【再掲】	<p>【人事委員会(人事係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月24日開催の第2回人事委員会にてクロスアポイントメント制度を周知した。【再掲】 ・10月21日に教職員に対してクロスアポイントメント制度を周知した。【再掲】 	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

	令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
54	④-3 ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 また、女性教員が働きやすい環境を整備するため、女性教職員の意見交換の場を設ける。【再掲】	<p>【人事委員会(人事係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1名が育児短時間勤務を行った。【再掲】 ・育児への配慮として2名が早出労働を行った。【再掲】 ・1名が育児休業を取得した。【再掲】 ・9月10日付けで同居支援プログラムについて募集を行った。【再掲】 ・令和6年度より個人別の変形労働時間制の導入しており、令和7年度も引き続き2名が変形労働時間制を適用した。【再掲】 <p>【ダイバーシティ推進室(総務係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月24日に女性教職員の意見交換の場として、校長主催の懇談会を開催した。【再掲】 	
55	④-4 外国人教員の採用を継続する。【再掲】	<p>【人事委員会(人事係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤1名・非常勤講師1名を雇用している。【再掲】 	
56	④-5 研修会等を通じて、ダイバーシティに関する意識啓発を図る。	<p>【ダイバーシティ推進室(総務係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月29日に1年生を対象に性的マイノリティ研修「LGBTQ+について知ろう」を実施した。 ・11月6日に1年生を対象に「女性の心身の健康に関する講演会」を開催した。 ・2月19日に第10回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加した。 	
57	⑤ 幹部人材育成を視野に入れ、個人の事情にも配慮しつつ、教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上に取り組む。	<p>【人事委員会(人事係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に技科大との教員交流人事制度について周知した。【再掲】 ・高専間教員人事交流については令和7年4月に周知した。【再掲】 ・常勤職員について令和7年10月時点で愛媛大学に1名を派遣し、1名を受け入れている。 ・7月31日にSPOD講師派遣プログラム「授業構成を考えるためのインストラクショナルデザイン」を開講した。【再掲】 <p>【FD委員会(教務係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観を6月～1月の期間で実施した。【再掲】 ・学内グループウェアにて、教員の資質向上を目的とした各種研修会の案内を随時行った。【再掲】 	
58	(2) 人員に関する指標 常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。	<p>【人事委員会(人事係)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課長等による面談を実施した。 <p>【高専機構主催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度初任職員研修会(令和7年4月16日～18日)に2名派遣した。 ・令和7年度学務担当者向けオンデマンド研修(第1回～3回※オンライン)に計3名参加した。 <p>【四国地区国立高専】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国地区国立高等専門学校技術職員研修・代表者会議(9月11日～12日)に2名派遣した。 <p>【人事院主催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国地区メンター養成研修(5月23日※オンライン)に3名参加した。 ・第55回四国地区中堅係員研修(6月11日～12日)に1名派遣した。 ・第15回四国地区マネジメント研修(1月22日)に1名派遣した。 ・令和7年度四国地区キャリア支援研修20(1月14日)に1名派遣した。 ・令和7年度四国地区キャリア支援研修30(1月15日)に1名派遣した。 <p>【中四国大学法人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(8月20日～8月22日)に16名を講師として派遣した。 ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会(8月21日～22日)に1名を講師として派遣した。 ・中国・四国地区国立大学法人等労働担当職員研修会(10月16日～17日)に1名派遣した。 ・中国・四国地区国立大学法人等財務会計事務研修(中・上級編)(10月22日～24日)に1名派遣した。 ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員代表者会議(2月26日～2月27日)に1名派遣した。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札談合等関与行為防止法等研修会(四国地区)(6月27日)に1名派遣した。 ・7月31日にSPOD講師派遣プログラム「授業構成を考えるためのインストラクショナルデザイン」を開講した。【再掲】 	
59	7.3 情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ① 情報戦略推進本部が提唱する情報システムについて検討する。	<p>【情報処理教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報戦略推進本部連絡会に参加し、次期情報システムについて説明を受けた。 【第1回:4/15 5名、第2回:5/29 4名、第3回:11/26 3名】 ・高専統一ネットワークシステムに係るパラメーターシートについては、週1回の学内センター打ち合わせを通じて内容を確認し、高専機構へ提出している。提出後に示される修正内容を踏まえ、継続的な改善を図りながら対応している。 ・令和7年12月1日・2日に開催されたIT人材育成研修会に技術職員1名が、同年12月24日に開催されたセンター長会議に情報処理教育センター長がそれぞれ参加し、高専機構統一ネットワークシステムに関する説明を受けた。 	
60	② デジタル・トランスフォーメーションに持続的に取り組むため、法人本部が実施する研修に情報担当者が参加する。	<p>【情報処理教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1四半期総務省情報システム統一研修においてデジタルガバメントに関する講義を職員1名が受講した。 	
61	③ 情報セキュリティ監査で発見した課題について対応していく。	<p>【情報処理教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ監査 助言・アドバイス残り1項目 ・eduroam接続: 認証システム(AXIOLÉ)におけるポリシー設定の見直しにより、問題が解消された。 【情報セキュリティ監査 指摘事項残り3項目】 ・情報システムの定期保守: 教務システムの更新に伴い、サーバーOSを最新のWindows2025Iに更新した。 ・ウェブサーバの運用: 学校ホームページのウェブサーバについて、OSのアップデート及びPHPのバージョン更新を完了させた。 ・外部委託の選定基準: 必要な水準に応じて、適切な対応方針を検討した上で、調達仕様書に明記するようにした。 <p>【情報関連規則等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「弓削商船高等専門学校情報処理教育センター利用規則」については、令和6年度第12回運営委員会(令和7年3月14日)において、改正が了承された。 ・「弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則」、「弓削商船高等専門学校ソフトウェア管理規則」及び「弓削商船高等専門学校情報セキュリティ利用者規程」については、令和7年度第12回運営委員会(令和8年3月12日)において、改正が了承された。 また、「弓削商船高等専門学校情報セキュリティポリシー」については、令和7年度第12回運営委員会(令和8年3月12日)において、廃止することが了承された。 ・「センター利用の手引き」、「情報セキュリティインシデント対応手順」、「ウェブサーバ設定確認実施書」及び「臨時利用者に対する注意事項」については、令和8年3月の情報処理教育センター運営委員会が改正予定である。 	

弓削商船高等専門学校 令和7年度年度計画に対する実績報告

	令和7年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
62	④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、法人本部が実施する情報セキュリティ教育及びインシデント対応訓練等に参加する。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなどに参加する。	<p>[情報処理教育センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構本部が実施する教職員向け情報セキュリティ研修(e-Learning)を実施し、対象者102名全員が受講した。 ・令和7年度第1回情報セキュリティトップセミナー(機構本部主催)において、対象となる管理職教職員全員が受講した。 ・教職員が参加した情報セキュリティに係る研修の数は、計3件(延べ7名)である。 ・令和7年10月16日、情報セキュリティインシデント対応訓練(報告経路確認訓練)を行った。実際のインシデント発生を想定した本番さながらの対応をシミュレーションすることで、情報セキュリティの意識向上を組織的に図っている。 ・令和7年11月10日～12日、全教職員を対象に情報セキュリティインシデント対応訓練(標的型攻撃メール対応訓練)を実施した。 ・四国サイバーセキュリティネットワーク主催SEC道後イベントについて、教職員6名が講演を試聴した。 	
63	⑤ 特になし ⑥ 情報セキュリティインシデントについて、法人本部から情報共有されるインシデント内容及びインシデント対応を周知する。また、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、インシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。	<p>[情報処理教育センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度情報セキュリティに関する注意喚起・情報共有を17件実施した。 ・情報セキュリティ研修(e-Learning)において、機構本部から提供された動画(インシデント内容及びインシデント対応、「すぐやる3箇条」を含む)を教職員が視聴した。 ・長期休暇(ゴールデンウィーク、夏季休暇、年末年始)における情報セキュリティ管理についての注意喚起の際に「すぐやる3箇条」を周知した。また、新任教職員に対して行ったネットワーク説明会においても、「すぐやる3箇条」を周知した。 	
64	⑦ 4 内部統制の充実・強化 ①-1 校長のリーダーシップのもと、責任ある意思決定を実現するため、定期的に運営委員会を開催する。	<p>[運営委員会(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を毎月開催し、学校運営及び教育活動に関する学内の意見を収集している。 	
65	①-2 校長・事務部長会議その他の主要な会議について運営委員会で課題や方針の共有化を図る。	<p>[総務課(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度第1回高専機構校長・事務部長会議の内容について、校長が第2回運営委員会にて報告を行い、法人としての課題や方針の共有化を図った。第2回及び第3回高専機構校長・事務部長会議の内容について、第7回及び第11回運営委員会にて報告を行い、法人としての課題や方針の共有化を図った。 	
66	①-3 法人本部に対し、各種会議等を通じ、必要に応じ、本校の状況、意見等を発信する。	<p>[総務課(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を毎月開催し、学校運営及び教育活動に関する学内の意見を収集している。また、定例会を毎週(うち月1回定例会(拡大))開催し、学内の意見を収集し、必要に応じて校長が機構本部に本校の状況、意見等を発信している。 	
67	②-1 法人全体の共通課題に対する機構のマネジメント機能を強化するため、理事長との面談等に対応する。	<p>[総務課(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月4日に理事長ヒアリングが実施され、校長が理事長と面談した。 	
68	②-2 法人本部が作成したコンプライアンス・マニュアルの活用及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの実施や、教職員を対象とした階層別研修等に参加することにより教職員のコンプライアンスの向上を行う。	<p>[リスク管理室(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月～2月に教職員を対象としたコンプライアンスに関するセルフチェックを実施した。 <p>[総務課(人事係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高専新任教職員研修会(令和7年5月15～16日集合研修)に1名を派遣した。 ・高専中堅教職員研修会(令和7年10月28日～29日集合研修)に1名を派遣した。 ・人事院主催第55回四国地区中堅係員研修(令和7年6月11日～12日)に1名を派遣した。【再掲】 ・人事院主催第51回四国地区係長研修(令和7年10月9日～10日)に1名を派遣した。 ・中国・四国地区国立大学法人等係長研修(令和7年11月19日～21日)に1名を派遣した。 	
69	②-3 事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。	<p>[総務課(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行っている。 	
70	③ 内部監査及び相互監査で発見した課題について、速やかに対応を行う。	<p>[総務課(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月24日、12月11日及び12月24日にそれぞれ施設部、リスク管理及び学務の内部監査を受けた。指摘された課題については速やかにグループウェア上で情報共有と改善について周知し、1月28日までに対応を行った。また、監事監査を10月28日(オンライン)及び11月5日(実地)で受けた。内部監査と同様に、指摘された課題については速やかにグループウェア上で情報共有と改善について周知し、11月20日までに対応を行った。 <p>[総務課(財務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度、本校は高専相互監査の被監査校とならなかったため、本年度の高専相互監査監査項目を含む日常監査チェックリストの全項目に基づき学内の会計実地検査(内部監査)を実施した。 ・監査の結果、指定金庫に係る監守責任者交代時に鍵の引継ぎが確認できる文書が未作成で、改善を講じる必要がある事項があったが、今年度末の金庫監守者交代時から鍵の受渡書を作成することで対策を講じたこととした。 ・上記の指摘事項に対して、金庫監守責任者(総務課長・企画広報室長)及び事務部長に改善事項と改善策を報告し、関係部署(財務、契約、施設)に周知した。 	
71	④ 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「公的研究費等不正防止計画」に基づく取組を実施する。	<p>[総務課(財務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月9日～27日にかけて教職員に対して公的研究費等の取扱いに関する説明会を実施した。説明会実施時に長期休暇で不在であった教職員については、復職時に説明会を実施した。 ・非常勤も含む全教職員に誓約書の提出を求め、全員から提出があった。 ・なお、年度途中の新規採用者全員に誓約書の提出を求め、全員からの提出があった。 	
72	⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を定める。また、その際には、本校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。	<p>[総務課(総務係)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を定めた。また、各項目の内容に応じて、具体的な成果指標を設定した。 	